

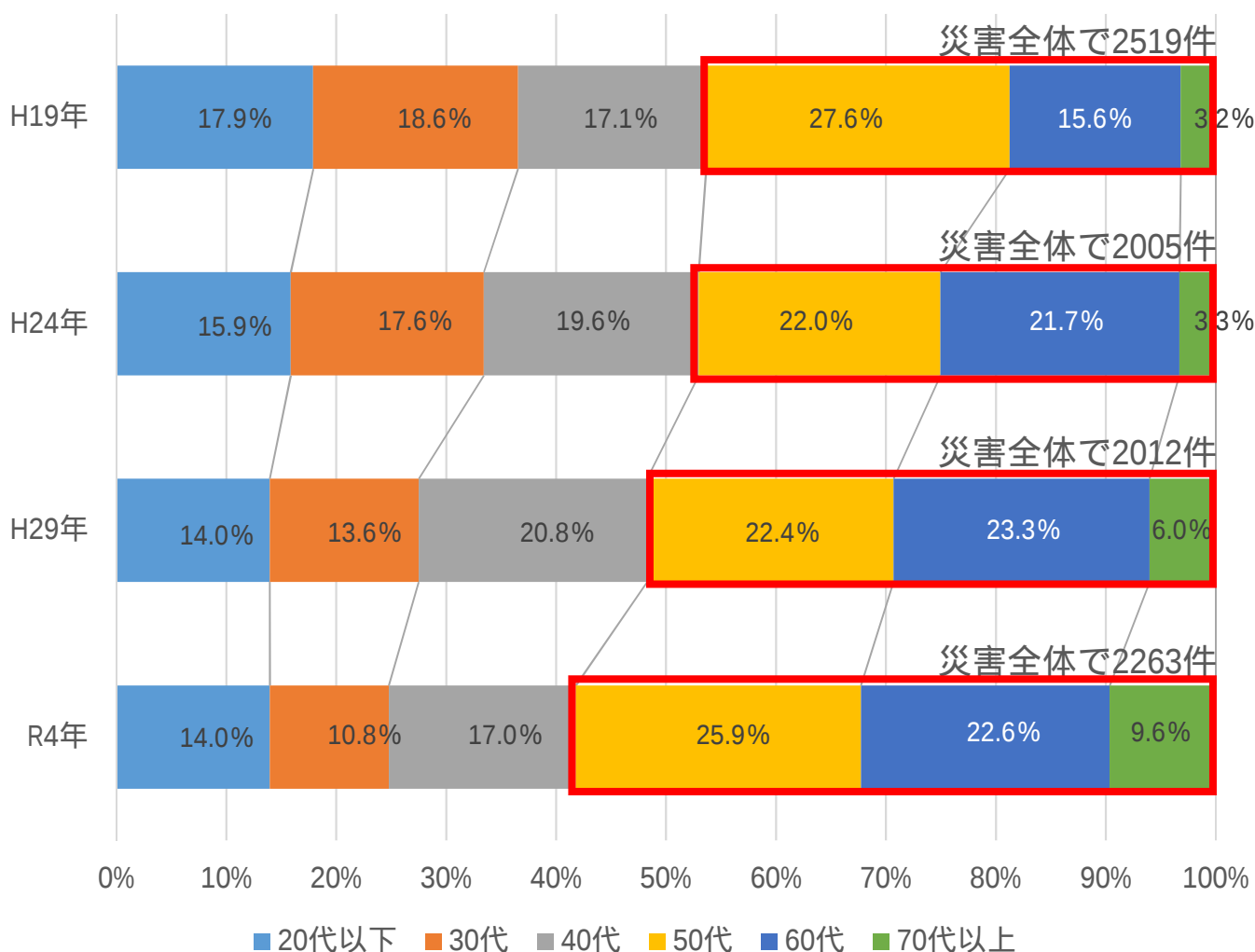
# 防ごう！高年齢者による労働災害！

労働災害全体のうち、60歳以上の被災者の占める割合は平成19年は20%弱でしたが、経年的に増加傾向にあり、令和4年には30%を超える状況にあります。

50歳以上では、平成19年は40%台でしたが、平成29年には半数を超え、令和4年は60%近くにまで増加しています。

今後も、定年の延長などによる高年齢労働者の就労者の増加により、高年齢労働者の災害が増えることが懸念されます。

～年代別労働災害発生状況～



労働者死傷病報告書（休業4日以上）による。

令和4年については新型コロナウイルス感染症によるものを除く。

**岐阜県小売業SAFE協議会**

株式会社バローホールディングス

株式会社ヒマラヤ

株式会社ユタカファーマシー

**岐阜県社会福祉施設SAFE協議会**

社会福祉法人慈恵会

社会福祉法人新生会

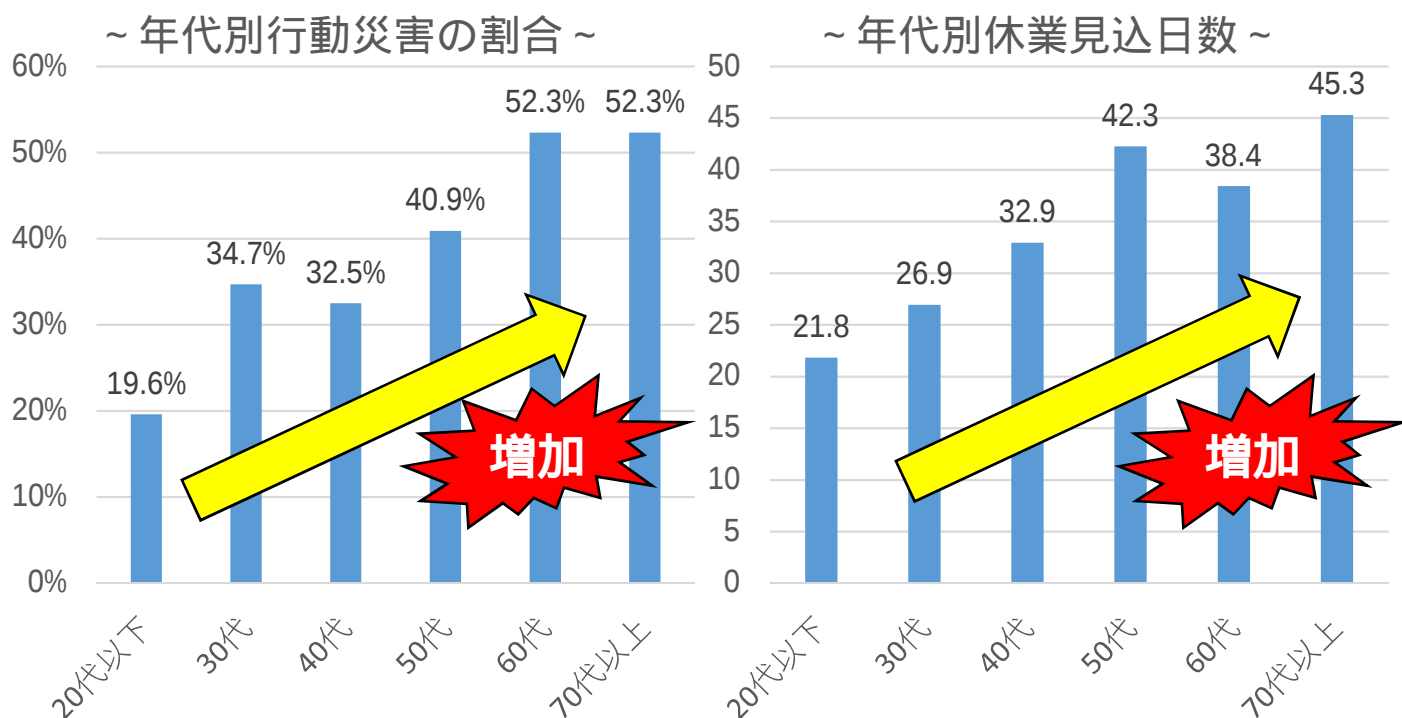
社会福祉法人平成会

**岐 阜 労 働 局**

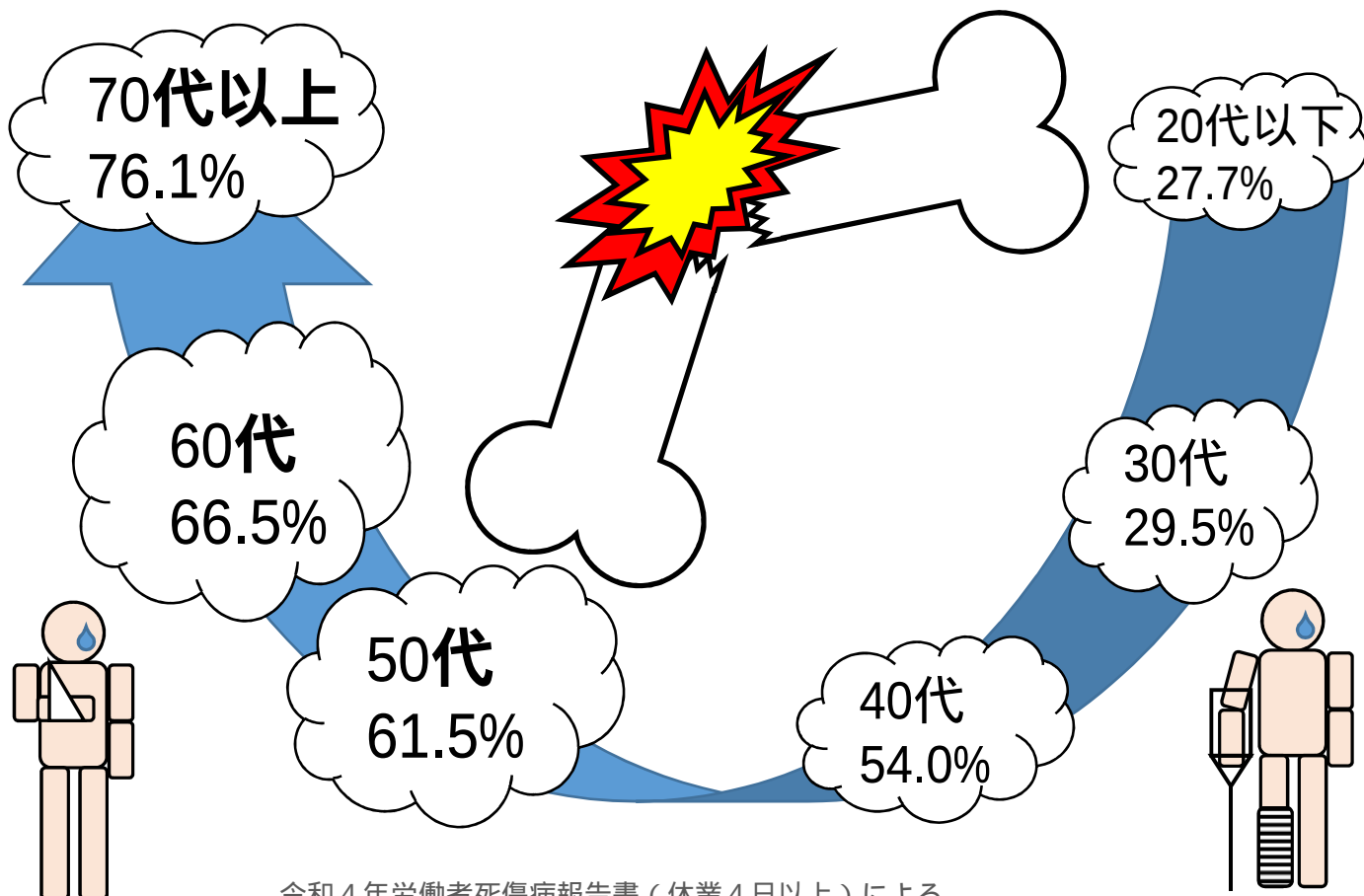
**健 康 安 全 課**

SAFE協議会とは・・・労働者が安心、安全に業務に従事できるよう、県内の安全衛生に対する機運醸成や、労働災害の防止を目的とした集まりです。

年齢層が高くなるほど行動災害（転倒、腰痛等）の占める割合は高くなり、休業日数も長期化する傾向にあります。



年齢層が高くなるほど骨折の割合が増加し、休業日数が長期化するなど重篤な結果に結びつきやすい傾向にあります。



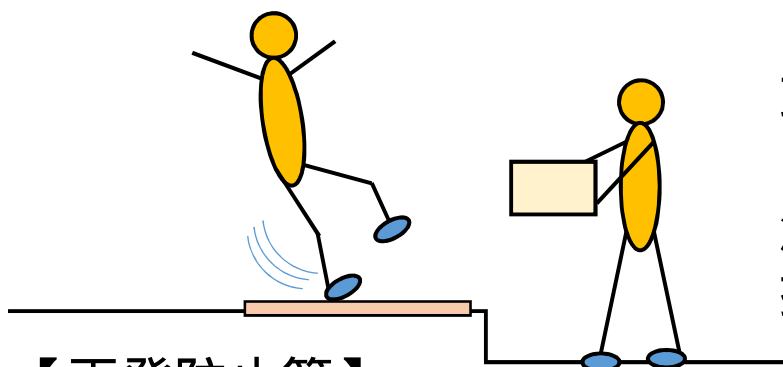
令和4年労働者死傷病報告書（休業4日以上）による。

「腰痛等」は、事故の型が「動作の反動、無理な動作」に該当するものをいう。

事故の型が「転倒」、「動作の反動、無理な動作」に該当するもから集計。

# 高年齢労働者による災害事例

## 【事例- 1 : 50代】



### 【災害の概要】

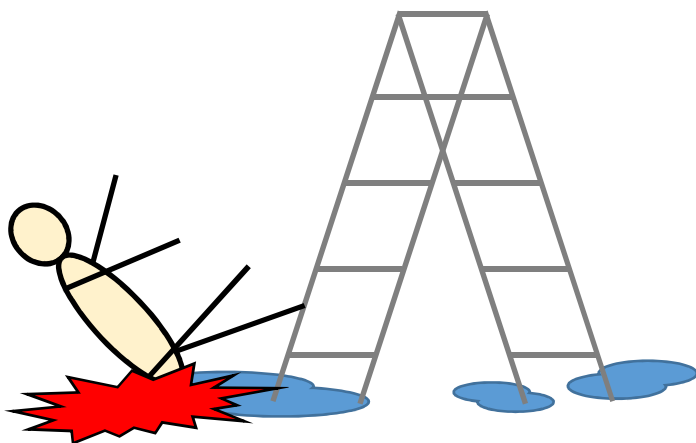
配達された品物を受け取るために、玄関先に出た際、玄関マットで足を滑らせて、ひざから下を捻ったもの。

### 【再発防止策】

- ・ 屋内であれば、フローリング マット（カーペット） タイル、屋外であれば、アスファルト 芝 砂利 など、摩擦の異なるところのほか、平面 傾斜面など斜度が異なるところでは転倒等の危険性が高まることに注意して移動すること。
- ・ 摩擦や斜度が異なるところには注意喚起の表示を行うこと。

---

## 【事例- 2 : 60代】



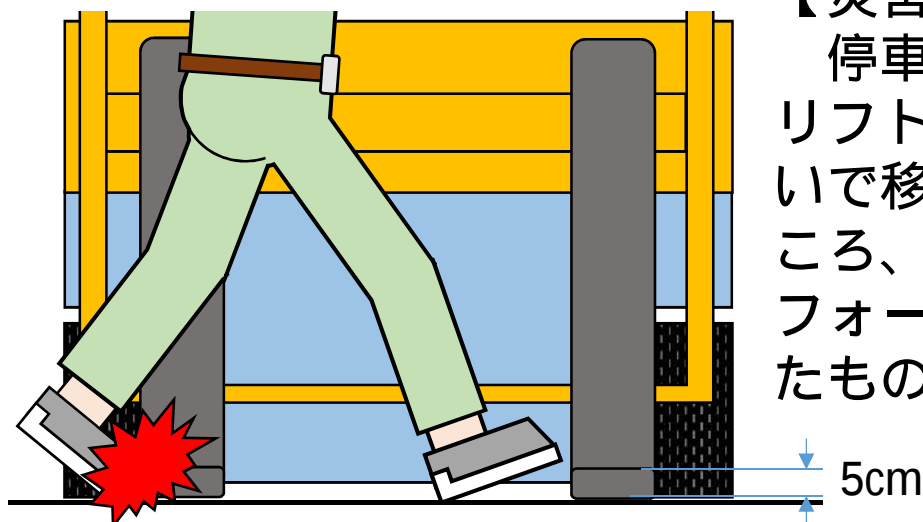
### 【災害の概要】

玄関の非常灯の蛍光灯を交換しようと、脚立を準備していたところ、脚立に付いていた霜が溶けて床が濡れ、足を滑らせて転倒したもの。

### 【再発防止策】

- ・ 霜が付着し、これが溶けることで床面を濡らすおそれがあるものについては、予め拭き取った後で使用する
- こと。
- ・ 濡れによる滑りに対応した履物を使用すること。

### 【事例- 3 : 70代】



#### 【災害の概要】

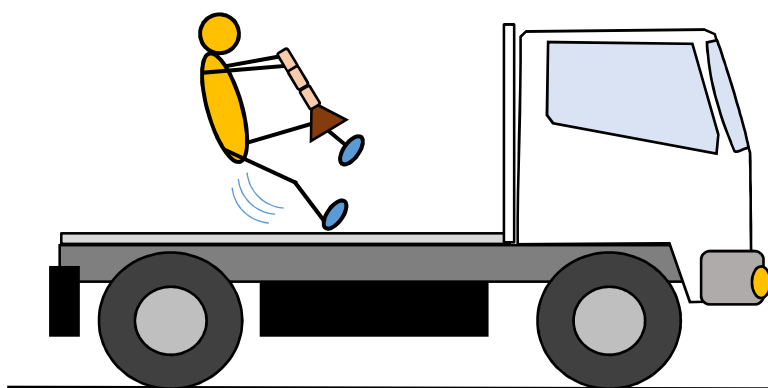
停車しているフォークリフトのフォークをまたいで移動しようとしたところ、足が上がらず、フォークに躓いて転倒したものの。

#### 【再発防止策】

- ・定められた通路を移動すること。
- ・つま先から着地するような歩き方等では、歩行時につま先が十分に上がっておらず、小さな段差等にも足を取られる可能性があること、加齢により足が上がらなくなることがあることを認識し、自身の歩き方を再確認すること。

---

### 【事例- 4 : 60代】



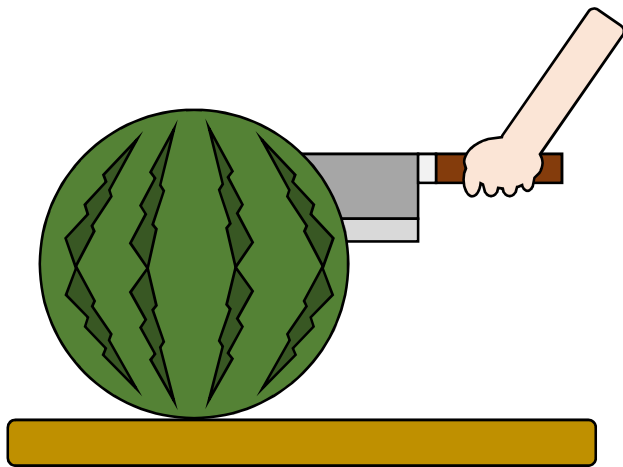
#### 【災害の概要】

竹ぼうきを使ってトラック荷台を清掃していたところ、荷台に付着していた水分と油分で足を滑らせて転倒したものの。

#### 【再発防止策】

- ・作業場所の状況に応じた履物を着用させること。
- ・荷台に上がらず、地上から荷台を清掃する方法を検討すること。

### 【事例- 5 : 60代】



#### 【災害の概要】

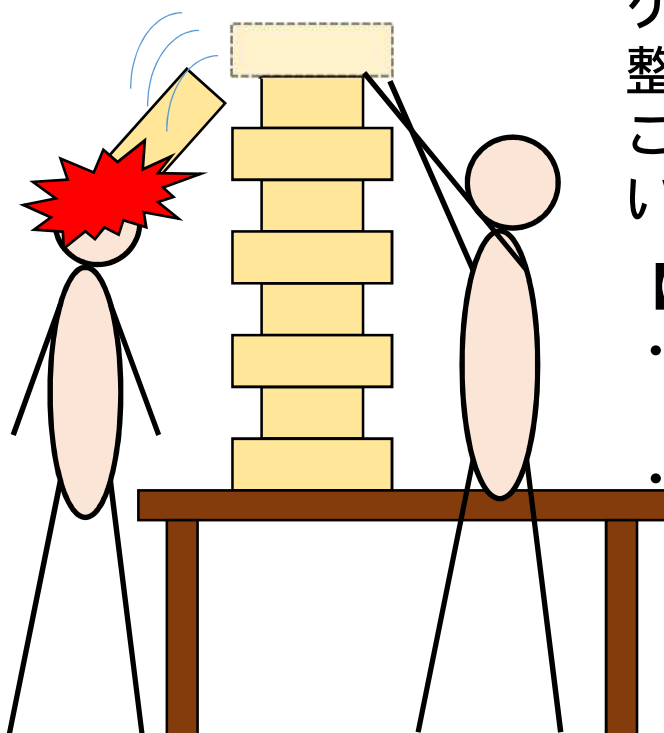
包丁の刃が鈍っていたため、力を入れてフルーツをカットする作業を行っていたところ腕を痛めたもの。

#### 【再発防止策】

- ・ 包丁は使用前に切れ味を確認し、必要に応じて研ぐことで不要な力を入れずに作業できるようにすること。

- ・ 作業台の高さが作業者の体格に適合しているかを再確認すること。
  - ・ 同一の作業を繰り返すことによる身体的負荷を考慮し、適宜、小休止を取りながら作業をするように指導するほか、小休止時にはストレッチを励行すること。
- 

### 【事例- 6 : 60代】



#### 【災害の概要】

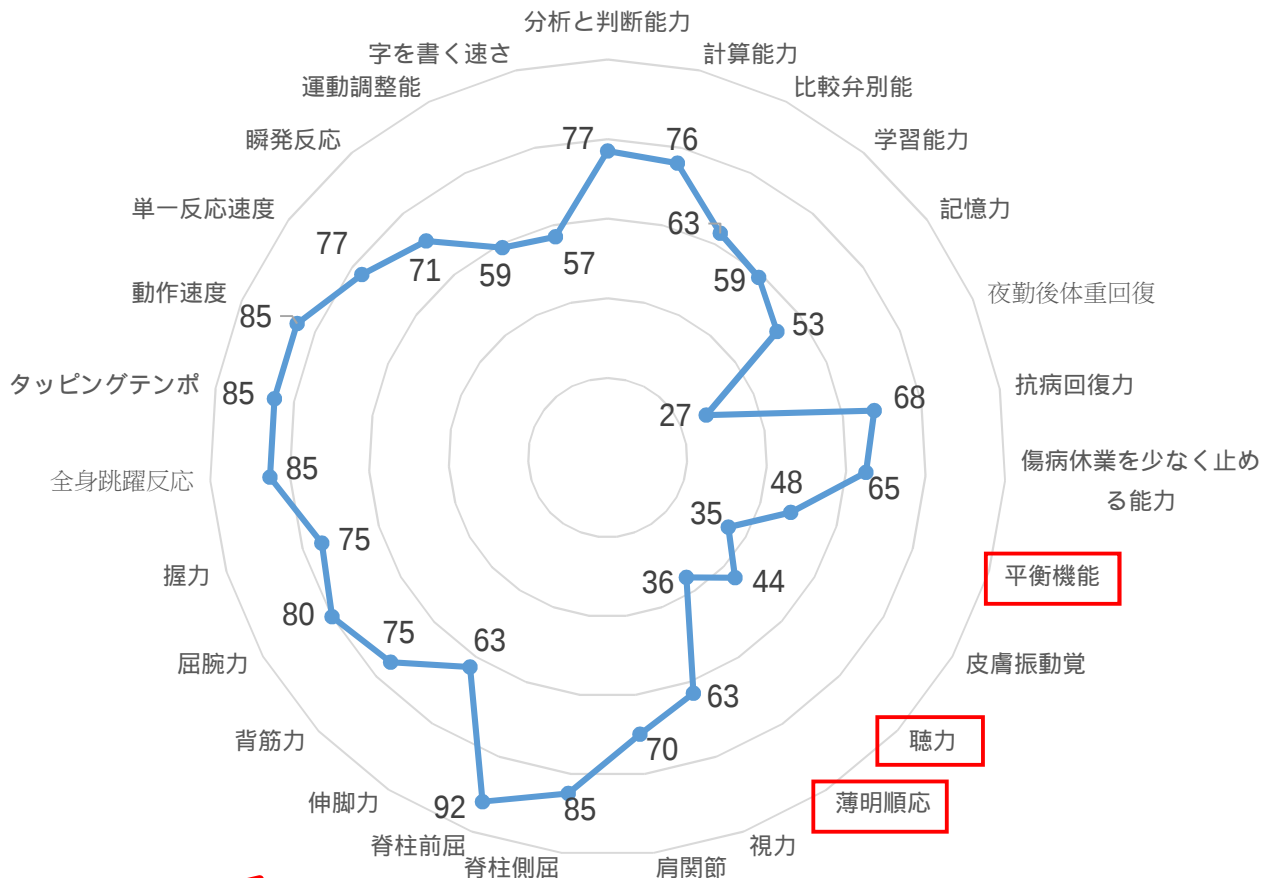
テーブルの上に洗ったケースを積み上げて乾かしていた。ケースが乾いたため、作業者が整理しようとケースに触れたところ、ケースが落下して近くにいた被災者に激突したもの。

#### 【再発防止策】

- ・ ケースの積み上げ高さの上限を定め、これを守ること。
- ・ ケース回収時等は、関係労働者以外の労働者は、積み上げられたケースに近づかないようにすること。

# 加齢による各機能水準の低下について

20～24歳ないし最高期を基準としてみた  
55歳～59歳年齢者の各機能水準の相対関係



## ポイント

出所：斎藤一、遠藤幸雄：高齢者の労働能力  
(労働科学叢書53) 労働科学研究所1980年

- ・特に、行動災害との関連性が高いものと考えられる平衡機能、聴力が大幅に低下しているほか、薄明順応（暗い所に入ったときに暗さに順応して物が見えるようになる能力）についても低下が認められます。
- ・高年齢労働者の機能水準の変化を踏まえて、職場の照明の明るさが適切であるかや、暗い場所はないか等について再確認するほか、作業指示を行う時の声の大きさ等が、高年齢労働者に確実に聞こえているかの再確認を行うことが大切です。
- ・また、高年齢労働者は、加齢により自身の機能水準が若い頃と比べて変化していることを認識して作業を行うことが大切です。

(高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン)

# エイジフレンドリーガイドライン

を参考にして、災害防止に努めよう

エイジフレンドリーガイドライン

検索

高年齢労働者の労働災害防止には、事業者と労働者、双方の協力が不可欠です。

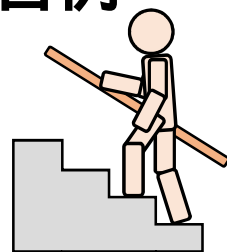


## 求められる取り組み

|     |                                                                            |
|-----|----------------------------------------------------------------------------|
| 事業者 | 高年齢労働者の就労状況や業務の内容等の実情に応じ、国や関係団体等による支援も活用して、実施可能な労働災害防止対策に積極的に取り組むよう努める。    |
| 労働者 | 事業者が実施する労働災害防止対策の取組に協力するとともに、自己の健康を守るための努力の重要性を理解し、自らの健康づくりに積極的に取り組むよう努める。 |

## ～ 高年齢労働者による労働災害防止のための作業環境の改善例 ～

- ・ 通路を含め作業場所の照度を確保する
- ・ 階段には手すりを設け、可能な限り通路の段差を解消する
- ・ 不自然な作業姿勢をなくすよう作業台の高さや作業対象物の配置、作業方法などを改善する
- ・ 防滑靴の利用など必要な保護具を着用する
- ・ 解消できない危険箇所には標識等で注意喚起する
- ・ 水分、油分を放置せず、こまめに清掃する
- ・ リフト、スライディングシート等を導入し、抱え上げ作業を抑制する



経験豊富な高年齢労働者が、いつまでも能力を発揮できる職場環境を構築することは、人手不足の解消や技術の継承等、企業にとって様々なメリットがあります。

# ～ 高年齢労働者の健康や体力の 状況を適切に把握しよう～

## 転倒等リスク評価セルフチェック票

### I 身体機能計測結果

#### ① 2ステップテスト（歩行能力・筋力）

あなたの結果は  cm /  cm (身長) =

下の評価表に当てはめると → 評価

| 評価表     | 1     | 2             | 3             | 4             | 5     |
|---------|-------|---------------|---------------|---------------|-------|
| 結果 / 身長 | ～1.24 | 1.25<br>～1.38 | 1.39<br>～1.46 | 1.47<br>～1.65 | 1.66～ |



#### ② 座位ステップテスト（敏捷性）

あなたの結果は  回 / 20秒

下の評価表に当てはめると → 評価

| 評価表 | 1   | 2         | 3         | 4         | 5   |
|-----|-----|-----------|-----------|-----------|-----|
| (回) | ～24 | 25<br>～28 | 29<br>～43 | 44<br>～47 | 48～ |



#### ③ フังก์ショナルリーチ（動的バランス）

あなたの結果は  cm

下の評価表に当てはめると → 評価

| 評価表  | 1   | 2         | 3         | 4         | 5   |
|------|-----|-----------|-----------|-----------|-----|
| (cm) | ～19 | 20<br>～29 | 30<br>～35 | 36<br>～39 | 40～ |



#### ④ 閉眼片足立ち（静的バランス）

あなたの結果は  秒

下の評価表に当てはめると → 評価

| 評価表 | 1  | 2          | 3           | 4           | 5     |
|-----|----|------------|-------------|-------------|-------|
| (秒) | ～7 | 7.1<br>～17 | 17.1<br>～55 | 55.1<br>～90 | 90.1～ |



#### ⑤ 開眼片足立ち（静的バランス）

あなたの結果は  秒

下の評価表に当てはめると → 評価

| 評価表 | 1   | 2           | 3           | 4            | 5      |
|-----|-----|-------------|-------------|--------------|--------|
| (秒) | ～15 | 15.1<br>～30 | 30.1<br>～84 | 84.1<br>～120 | 120.1～ |



身体機能計測の評価数字を  
Ⅲのレーダーチャートに黒字で記入

高年齢労働者の実際の  
身体機能と、自身が思っ  
ている身体機能の差を知  
り、身体機能の維持、  
向上を図ることが大切  
です。

### （身体的特性）

|                    | あなたの回答NOは            | 合計                   | 評価                   | 評価           |
|--------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--------------|
| 中、正面から来る人にぶつからず、よ  | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | ① 歩行能力・筋力    |
| こびて体力に自信はありますか     | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | ② 敏捷性        |
| な事態に対する体の反応は素早い方   | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | ③ 動的バランス     |
| 小さい段差に足を引っかけたとき、す  | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | ④ 静的バランス（開眼） |
| が出るとおもいますか         | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | ⑤ 静的バランス（閉眼） |
| なまま靴下を履くことができると思   | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |              |
| 引いたラインの上を、継ぎ足歩行で   | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |              |
| こができると思いますか        | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |              |
| て片足でどのくらい立つ自信がありま  | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |              |
| あって、つり革につかまらずどのくらい | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |              |
| いると思いますか           | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |              |
| て片足でどのくらい立つ自信がありま  | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |              |

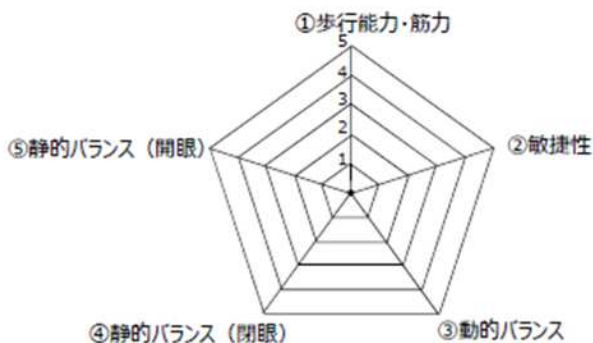
| 合計点数 | 評価表 |
|------|-----|
| 2～3  | 1   |
| 4～5  | 2   |
| 6～7  | 3   |
| 8～9  | 4   |
| 10   | 5   |

それぞれの評価結果をⅢの  
レーダーチャートに赤字で記入

### Ⅲ レーダーチャート

1、2 ページの評価結果を転記し線で結びます

（I の身体機能計測結果を黒字、II の質問票（身体的特性）は赤字で記入）



|           |         |         |           |
|-----------|---------|---------|-----------|
| ① 歩行能力・筋力 | ② 20秒程度 | ③ 40秒程度 | ④ 1分程度    |
| ② 敏捷性     | ② 30秒程度 | ③ 1分程度  | ④ 2分程度    |
| ③ 動的バランス  | ② 30秒程度 | ③ 1分程度  | ④ 1分30秒程度 |